



2021年初頭に思う 「個別最適化か 協働的な学びか」

福岡中学校 校長 山内 貴弘

11月指導員訪問、2年4組で「欧米の進出と日本の開国」第4時間目の授業が始まった。学習課題は、「産業革命は、どのような影響を与えたのか」。使い始めたタブレットがまだうまく使えないが、それでも教師の提示した資料から情報を集積した生徒は、産業革命を現代社会と比較したり、世界に視野を広げたりして、教材の本質に切り込んでいく。

新しい時代の幼稚園や小学校、中学校、高校などの教育（初等中等教育）の在り方を検討している中央教育審議会は現在、年明けの答申に向け、議論を本格化させている。学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）が求められている。しかし、今、世には「個別最適化」という学びが蔓延している。この二つは別の「学び」なのか。そもそも「個別最適な学び」は、前政権下の2018年6月、文部科学省内タスクフォースの報告にあった「公正に個別最適化された学び」が、もとになっている。この報告には、人工知能（AI）の発達などにより「Society5.0（超スマート社会）」と呼ばれる新しい時代が到来しようとしている時に、AIに仕事を奪われるのではなく、AIを使いこなせるような人を育てなければいけない、という問題意識があったことに起因する。そのためにも学校は、すべての子どもたちに、基盤的な学力の確実な定着と、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びを実現できるよう、「公正に個別最適化された学び」を実現する多様な学習機会と場の提供を図ることが必要だ、と中教審は指摘した。個別の中身には、実は「協働」的な学びも意識されていたのである。そうした中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置が続き、現場は混乱した。学習を補うため、オンライン学習の必要性が高まった一方、やはり登校してこそその「リアルな学び」の重要性も、再認識されていった。休業明けの教師による主導的な授業で何が育ったかを改めて見直した時、学びは常に学習者（児童生徒）の視点で展開されなくてはならない、そのことを整理したものが「個別最適な学び」の定義といえるのではないだろうか。GIGAスクールによるデジタル教育が拡大すれば、より一人ひとりに対応した学習が進む一方で、人と人が一つの場集まり、対面することでしか学べない学習が今後はフォーカスされる。そのため中間まとめは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は「行ったり来たり（往還）」することが必要だとしている。

2年4組の授業は振り返りの段階を迎え、教室は産業革命を総括するラベリングが行われていた（*ラベリング＝テレビ番組「激レアさんを連れてきた」より。視聴サレタシ！）。グループで話し合い、それぞれのキーワードが黒板に貼付されていく。「現在の常識が始まった革命」「利便性追求革命」「時間とルール厳守革命」…これまでの学びが透けて見えるようでなかなか良い。最後にラベリングの根拠が明かされ、意見交換で授業が閉じた。一人調べから始まったこの授業が、いつの間にか、クラス全員で価値をつくりあげる授業になったその訳は、「ザックリ入った学習課題」「立場より総括」を重視している点にあると私は考えている。「行ったり来たり」の授業は、「全員で」深まりを創り出すことができる授業だった。そして、その「行ったり来たり」の授業は、社会科が担うところが大きいと感じている。

社会科研究作品展

今年度は、「おかざきッズ作品展」の一つとして、Web上での開催となりました。市内各小中学校から、数多くの研究が公開されました。学校代表作品として出展された全ての作品が、入選作品として表彰されます。3月31日までです。ぜひご覧ください。



社会科部 役立ちリンク集

基礎研修委員会で「役立ちリンク集」を作成しました。社会科部のHPをご覧ください。各学年の授業で活用できるリンク集となっていますので、日々の授業でぜひご活用ください。

発見！一押し地域教材！

(岡崎小 南 健太郎 先生)

「身近なお店 コンビニエンスストア」(岡崎小学区)

★授業への活かし方

- 小学3年生 単元「店ではたらく人」におすすめ
- 学習課題 「なぜ多くの人がコンビニを利用するのだろうか」

コンビニの店内の様子やインタビューで得た情報をまとめたヒント集



★この教材を使い、工夫した点

①スーパーマーケットでの学びを深める、コンビニエンスストアの追究

児童に身近な地域のお店であるスーパーマーケットで、お客さんが買い物をしやすい工夫や、お店の人の思いや願いについて学んだ子供たち。そこで得た学びを更に深め、より「自分事」として捉えることができるよう、地域にある身近なお店としてもう1つ、コンビニエンスストアでの工夫について追究する授業を設定しました。

②提示する資料を工夫することで、全員が自分の考えをもてるように

時間数の都合などで子供たちが実際に見学に行けない場合に有効です。教師が事前にコンビニ店内の様子撮影や店員さんへのインタビューを行い、そこで得た情報をまとめたヒント集を配付することで、具体的なイメージを浮かべながら意見を考えることができました。

必見！授業技！

(北中 青山 当知 先生)

～スクールタクトを取り入れた授業～

A

B

アフリカ州の様々な課題って、解決することができるのかな？

解決できる 解決できない

根拠(理由)を書いてみよう！

アフリカは、砂漠化が進んでしまっている。 → 一度砂漠化してしまった土地をもとにもどすのは難しい

人口が増えた → 輸出していたものも国内で食べてしまう

食糧をたくさん生産しないといけない → 必要な量の生産ができない

自分たち(アフリカの人)が食べるものがなくなってしまう

C

- A** : 生徒が自分の意見をまとめる際に使用した語句の一覧です。使用頻度が高い語句程大きく表示されます。
- B** : 生徒がまとめた意見です。矢印や色を使い分け、意見構築までの流れを工夫してまとめていました。
- C** : 「いいね」や「コメント」をした場合の、生徒の相関図です。矢印の方向で主客が視認できます。

【本時までの流れ】

アフリカ州の国々の乳児死亡率が低く、平均寿命が日本よりも短いことを教科書の資料から読み取りました。それらの原因を探るために、文献やインターネットを活用したり、児童労働を扱った番組を視聴したりして、アフリカ州の現状を知りました。アフリカ州の現状を知る中で、改善したいという思いを抱いた生徒を取り上げて、自分達に何ができるかについてスクールタクトを活用してまとめました。

【スクールタクト使用の意図】

- ①生徒がどんな疑問を抱き、何について調べているか、どのようにまとめているかを視覚的に知ることので、追究の中で1人1人に適切な声掛けができるようにしました。
- ②「共同閲覧モード」を活用することで、発表者だけでなく生徒全員の意見を共有できるようにしました。参考になった考えを書いている生徒には「いいね」をすることで、自分の意見に自信をもって発言することができるようにしました。